

▽地域の明日を拓く△

浄法寺漆の「良さ」を

自分たちで発信



浄法寺うるしび合同会社
(二戸市)
代表社員

みすみ 三角 裕美

浄法寺生まれ浄法寺育ち。学校の授業以外で漆に触れることがなかった私ですが、10年前手仕事に興味を持ち、それを仕事にできたらと思っていたところ、地元浄法寺漆に親近感を妙に感じ、漆器の製作販売を行う滴生舎への転職を機に漆の世界に飛び込みました。国内で使用されている漆の約97%は輸入された漆。残りの3%のうちの約7割がこの浄法寺で採られた漆です。漆が有名な地域ということは知っていましたが、この事実を知ったときは驚きました。浄法寺って凄い。

▽漆器の奥深さを知って

漆器と聞くと…、扱いが大変そう、高価、お正月に使うもの。そんなイメージが浮かぶかと思いますが。私はそうでした。

しかし、ひとつの漆器ができるまでには、たくさんの方が関わっています。

漆の木を植えて育てる人、漆掻きの道具を作

る職人（鍛冶屋さん）、漆掻き職人、漆を塗るための刷毛を作る職人、塗師。漆に関係するだけでも、こんなにもたくさんの方々の手と心で出来上がっているのです。

私が手掛ける漆器は浄法寺で採られた漆を100%使用しています。下塗りから、何層も「塗り」と「研ぎ」を繰り返す中塗り、そして仕上げの上塗りまで。日光東照宮など国の重要文化財の修復に使われる漆と同じものを贅沢に使用しています。歴史や文化を守るために使われる浄法寺漆を扱えることに喜びを感じています。

これまで、先輩塗師や周りの方から協力いただき、技術の習得に励み、塗りの全行程が行えるまでになりました。

漆は掻いた職人さんによって個性があります。香り、色、粘り、乾く（硬化）スピードなど。その個性を把握しながら日々塗り作業をする難しさは10年塗っていても難しい。ここにいるからこそ知ることができたと思います。

▽漆への思いを伝える会社の設立

二戸市の非常勤職員として塗り一筋で頑張ってきましたが、漆と自由に関わりたく、漆を通じていろんな方と繋がっていきたく、何より私たちが「コト」を起こしたい思いが強くなり、これまで長年一緒に塗師としてやってきた3人で2020年2月、浄法寺うるしび合同会社を立ち上げました。うるしびの「び」には、先人が繋いできた灯ともしびを次の世代へ、そして焚き火のように周りにいる人々が温かくなるように、たくさんの方に漆の美しさを伝えたい、そんな漆への思いを込めています。

私個人としては以前から、漆器を使える場をもっと作れたら！と、思っておりました。しかし、何から始めていいものかわからず、時間だけが経過し早何年でしょう…。

漆器は使ってこそ良さがわかると思います。浄法寺の漆器は使うほどに艶が出てくるので



浄法寺・滴生舎内での漆器の展示販売



漆塗り職人として

漆塗り職人として
漆塗り職人として、漆の良さを伝えていきたいですね。漆の良さを伝えていきたいですね。漆の良さを伝えていきたいですね。

経年変化を楽しめますし、何より口あたりがとても心地いい。ですので、買う前に使ってみてほしい。それにはお茶やコーヒーを飲める場などが必要と考えていました。

私一人では行動できなかったことが、会社となればできるかもしれない。いや、やりたい！と、ワクワクです。会社になったことで、やりたいことを実行するまでのスピードが格段と速くなりました。

しかし、経営についてはまだまだ分からないことだらけで勉強の毎日。役員3名、従業員5名、計8人の会社です。そのうち7名が女性。女性が働きやすい会社とはどんな会社なのか。結婚、出産、育児、そして仕事。働きやすさはひとそれぞれ。スタッフの能力が最大限発揮できる環境づくりとプライベートの時間も大切にもらうワークライフバランスを実現することが、経営者としての今の目標です。

▼足元を見つめると

浄法寺にはイイモノがたくさんあります。天台寺、稲庭岳、短角牛、南部煎餅などはもちろんですが、心が和むこの地域独特の優しい訛りも残していきたい！身近なもの過ぎて当たり前の存在になっていくことが多いなか、新しく作るのではなく、今あるもの、昔から受け継がれているものを今一度見つめ直し、磨き上げることも大切だと思います。

このような考えを持てるようになったのは、新潟県出身の同僚の影響がすごく大きいと感じます。

例えば、柏の葉に包んだ蒸しパンのようなものを「きゃば餅」と言いますが、私にとっては身近で当たり前の存在ですが、同僚は「きゃばって何?」「餅じゃないのに餅?」と。え? そこ?、と思うようなことに興奮している同僚の姿はとても新鮮。私にとつての日常が同僚にとつては非日常なのです。漆の仕事を始めてから出会ったたくさんの方のおかげで、食だけに限らず、地元についてよく考えるようになりまし、ますます浄法寺が好きになりました。漆のお陰でもあります。

▼アフターコロナに向けて

今、世の中は新型コロナウイルスの影響を受けています。私たちもゴールデンウィークに予定していたイベントが中止となり影響を受けました。これまで、お客様一人一人と向き合ってお話をして漆の魅力を伝えてきましたが、そのようなスタイルも新しい生活様式に合わせて変えていかなければなりません。ステイホーム、外出自粛期間中は、私たちからできることは何か、一度立ち止まって考える良い機会だったと前向きに捉えるようにしています。私たちはまだスタートしたばかり。ピンチをチャンスに変えるためスタッフみんな力を合わせて乗り越えるしかありません！

また、お客様ご自身も大変な状況にあるにもかかわらず、私たちの事を心配してくださったり、たくさんの方に応援してもらっていることを改めて実感しています。とても心強い!!

ステイホーム期間中は、これまでの生活を見つめ直す機会になった方も多いため、食卓を囲む時間に、心と空気のアイテムのひとつとしてお気に入りの器、それが浄法寺漆の器なら嬉しいなと思います。

漆の良さ・浄法寺の良さを知ってもらうために、私たちにできることより私たちがだからできることは何なのか…。これからは試行錯誤しつつも楽しみながらひとつずつ答えを出していきたいと思えます。

みなさん、是非滴生舎へお越しくださいね!!